



スネ号

第210号

発行日：令和3年7月1日
発行者：医療法人 博愛会
福田脳神経外科病院 新聞部

診察室から 増えている疾患、減っている疾患（Ⅱ） 院長 福田 雄高

（前月号の続き）

- ③ てんかん **高齢者てんかん増加** 小児～若年者、成人のてんかんは、ある一定の割合で存在し、その数は変わらないものと考えます。高齢者てんかんは加齢に伴い出現しますが、確実に増加している印象です。典型的な手足のけいれん発作ではなく、なんとなく意識がとんで宙をみる、口をもぐもぐさせる、体の一部がふるえる、などの症状は高齢者てんかんの可能性があります。
- ④ 脊椎疾患 **増加** 手足のしびれ、痛み、脱力だけでなく、頸部痛、立位時や歩行時のふらつきなどを認め、レントゲンやMRIなどで調べてみると、頸椎症、腰部脊柱管狭窄症と診断に至る方は完全に増加している印象です。症例によっては、うまく改善する可能性もあるものと考えます。
- ⑤ 頭痛 **小児増加 緊張型増加** 若年～中年女性の片頭痛の方、あるいは疲れ、ストレスによる緊張型頭痛の方は確実に認めます。そのなかでも気になるのは、コロナ禍で運動習慣が減ったのか、緊張型頭痛の方は増加している印象です。また、小児の頭痛も、以前より増加しているのを体感します。
- ⑥ 認知症、物忘れ いわずもがな増加されています。

増加しているばかりで、減っているのは？若年～中年の交通外傷による頭部打撲。高血圧性脳内出血。くも膜下出血も以前よりなんか増えてないような・・・

なんといっても、これらの疾患に加えて増加しているのは不安感ではないでしょうか。長引いているコロナ禍ですが、なんとか現状の状態が落ち着き、終息が見え、社会全体の閉塞感、不安感が薄れればと願います。

病気に関する情報は日々更新されており、それに伴いガイドライン、治療方法も変化していつてます。日々更新されている、病気の原因や、治療に対して、わかりやすくお伝えできればと思います。わからないことがあれば遠慮なく相談して頂ければと思います。

芝生と空 なんとなくどこかの国の国旗
“Julio sano, lo mejor del verano”（健康な7月、最高の夏）



